

議題2 白井市地区別ワークショップ 結果とりまとめ

1 実施目的

市民アンケート等の調査で明らかになった地域福祉に係る地域の特性や課題をテーマとして、参加者に日頃感じていることやより良い地域にするためのアイディア等の意見を出し合ってもらい、地域福祉に係る関心の向上を図ると共に、地域福祉に関する施策の検討に反映させる。

2 実施日時・場所

日時	場所	対象地区	参加人数	グループ
4月19日(土) 午前10時～12時	白井駅前センター	南山小学校区 池の上小学校区	16人	3
4月19日(土) 午後2時～4時	西白井複合センター	大山口小学校区 清水口小学校区 七次台小学校区	21人	4
4月26日(土) 午前10時～12時	公民センター	第二小学校区	15人	3
4月26日(土) 午後2時～4時	桜台センター	桜台小学校区	10人	2
4月27日(日) 午前10時～12時	富士センター	第三小学校区	13人	3
4月27日(日) 午後2時～4時	白井コミュニティ センター	第一小学校区	17人	4

3 対象

市内居住者、活動で地域に関わっている方など、どなたでも

4 周知方法

広報しろい(4月1日号)、ホームページ、市公式LINE、公共施設等チラシ設置、関係者(団体)への個別通知等



▲募集用チラシ

5 実施方法

以下のテーマから特に話したいものを各グループで2つ決め、それぞれのテーマについて課題の背景や現状を考える。その後、テーマの実現のために「自分・地域ができること・やりたいこと」「市にお願いしたいこと」の視点でアイディアを考える。最後に、どんな白井市になったら良いか(どんな白井市にしたいか)キャッチフレーズを考える。

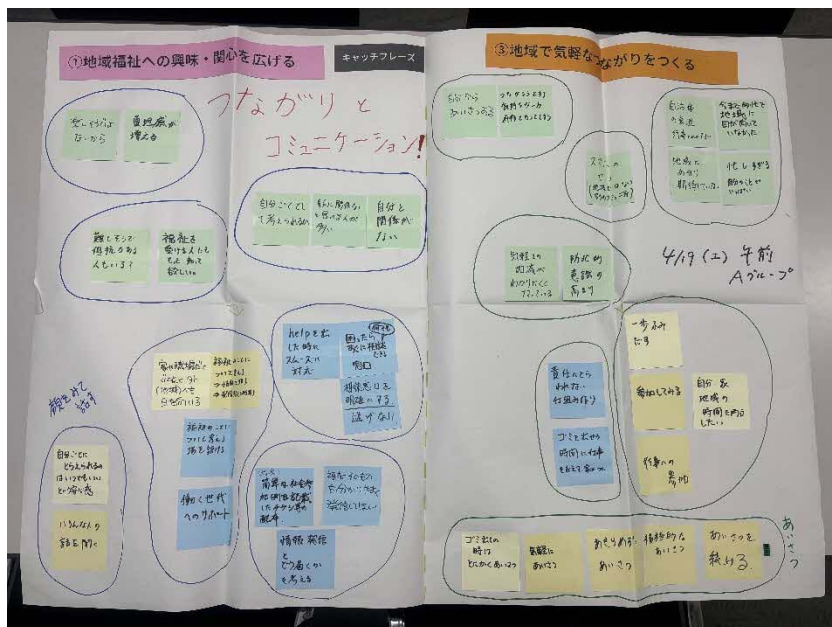
テーマ

- | | |
|-------------------|----------------|
| ① 地域福祉への興味・関心を広げる | ② 地域福祉の活動者を増やす |
| ③ 地域で気軽なつながりをつくる | ④ 地域に居場所がある |

5 実施結果（グループ別）

(1) 4月19日（土）AM Aグループ

キャッチフレーズ【つながりとコミュニケーション！】



テーマ【①地域福祉への興味・関心を広げる】

■現状・課題

- ・楽しそうではないから
- ・負担感が増える
- ・難しそうで抵抗がある人もいる？
- ・福祉を受ける人にももっと知って欲しい
- ・自分ごととして考えられるか
- ・自分に関係ないと思っている人が多い
- ・自分と関係がない

■自分・地域でやること

- ・自分ごとにとらえられるのはいつでもいいという安心感
- ・いろんな人の話を聞く
- ・家や職場だけではなく、外（地域）へも目を向ける
- ・福祉のことについて考える⇒情報を探す⇒発信する（SNS等）

■市にお願いしたいこと

- ・福祉のことについて考える場を設ける
- ・働く世代へのサポート

- ・ help を出した時にスムーズに対応
- ・ 困ったらすぐに何でも相談できる窓口
- ・ 相談窓口を明確にする、逃げない！
- ・ 簡単な社会参加例を記載したチラシ等の配布
- ・ 福祉そのものを分かりやすく発信してほしい
- ・ 情報発信とどう届くかを考える

テーマ【③地域で気軽なつながりをつくる】

■現状・課題

- ・ 自分からあいさつする
- ・ つながろうとする気持ちが一方通行となってしまう
- ・ スマホのせい（地域ではない別のコミュニティ）
- ・ 自治体の衰退、行事とかがない
- ・ 地域にあまり期待していない
- ・ 今まで多忙で地域に目が向いていなかった
- ・ 忙しすぎる
- ・ 自分のことでいっぱい
- ・ 気軽さの加減がわかりにくくなっている
- ・ 防犯的意識の高まり

■自分・地域でやること

- ・ 一歩ふみだす
- ・ 参加してみる
- ・ 自分・家地域の時間を両立したい
- ・ 行事への参加
- ・ ゴミ出しの時はとにかくあいさつ
- ・ 気軽にあいさつ
- ・ あきらめずにあいさつ
- ・ 積極的なあいさつ
- ・ あいさつを続ける

■市にお願いしたいこと

- ・ 責任にとらわれない仕組み作り
- ・ ゴミを出せる時間に仕事をおえて家につく

(2) 4月19日(土) AM Bグループ

キャッチフレーズ【みんなでつながり支え合う】



テーマ【②地域福祉の活動者を増やす】

■現状・課題

- ・福祉を身近に感じている人が少ない
- ・スキマ時間（日付）で参加できるようになると良いと思う
- ・どんな参加可能活動があるかを住民に知らせる
- ・自分にどんなことができるかがわからない
- ・自分にどのような活動ができるか、情報があまりなく分からない
- ・地域福祉に関する情報を得にくい
- ・福祉そのものを知らない人が多い
- ・現役世代の忙しさ
- ・子育ての忙しさ
- ・福祉とは何か知らない人が多い
- ・福祉の必要性を知らない人が多い
- ・若い世代に学校などを通じて福祉に関心を持つ機会を増やす
- ・早朝の小学校あずかり（見守り）
- ・オンライン、デジタルの活用不足
- ・はじめて話す人と一緒に活動していけるかどうか？

■自分・地域でやること

- ・福祉についてどういった活動があるのかを調べる、勉強する
- ・活動の時間つくる

- ・声かけをして仲間を増やす
- ・友達など他者を誘って、福祉活動に参加する（短時間でできるものから）
- ・地域住民の方への情報発信・提供、紹介、ボランティアを集うための発信
- ・所属しているボランティア団体2ヶ所での手伝い
- ・各地域にある自治会の参加なら、し易い
- ・夏まつりの手伝い（スポーツクラブ会員として）
- ・自治会に加入する、加入者が増えるように働きかける
- ・図書館で勉強
- ・実際に活動している人の Blog を見る⇒自分に何が出来るか考える
- ・1回参加
- ・友だちを誘う⇒声かけ活動
- ・福祉に興味を持ってもらう⇒福祉とは…
- ・白井市としてどういう地域を目指していくか
- ・みんながつながる、安心、つながるとうれしい
- ・活動に参加するときの誘い合い、声かけでのつながり⇒参加した場でのつながり⇒つながりが広がる⇒つながりのつながり

■市にお願いしたいこと

- ・HP や広報等の他に SNS などを使って発信する
- ・市公式 LINE を活用して情報提供する（募集時）（発信）
- ・福祉の現状・必要性を具体的にビジュアルに広報（啓蒙）⇒自分事化できるよう

テーマ【④地域に居場所がある】

■現状・課題

- ・気軽に集まれる場所がない
- ・子ども、若者が気軽に集まって遊んだり勉強できる場所が少ない
- ・男性（高齢）方が気軽に集まれたり、運動ができる場所がない
- ・各センターの無料開放日（レクホールなど）を増やす
- ・地区毎での例えば楽トレなどもあるが、お年寄りが多い中でもう少しお若い方も参加できる（福祉関連の）内容のものと良いと思う
- ・地域の居場所
- ・集まりの場所を知らない
- ・移送や送迎がないとなかなか行く気にならない
- ・居場所はたまり場ではない
- ・毎週木曜日ハッピープラザはつどいの場になっています
- ・さそってくれる人がいるとありがたいです
- ・一人でぼつんて行くと話し相手がいない

■自分・地域でやること

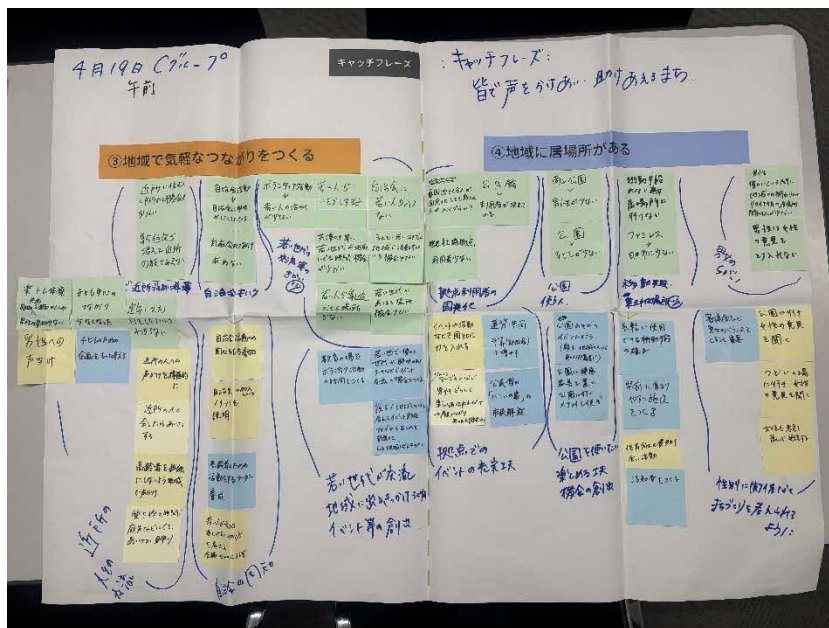
- ・顔なじみの関係づくりのためのお手伝い⇒社協さんとの連携
- ・「居場所」に勇気をもって参加する
- ・参加者を募る際条件を明確にする（ハードルを下げる）
- ・母子家庭、障がい者⇒つながる各々のコミュニティづくり⇒ヨコのつながりづくり
- ・気軽に外へ出る
- ・ひとやすみ
- ・気軽に休める腰かけベンチ

■市にお願いしたいこと

- ・SNSで発信、デジタル空間をつくる（若者を意識）
- ・移送サービスの充実
- ・ベンチの造設⇒座れる場所（長い距離を歩くのが大変）
- ・気軽に参加できる居場所・運動の場づくり
- ・同じ悩み、苦しみをもつ人同士をつなぐ仕掛け⇒悩みを吐き出す⇒講話会、SNS
- ・お若い方も参加しやすいように、池小地区ハッピープラザの建物を建て替えて欲しい（現状：古い小屋のイメージ、楽トレの時にゆれる）
- ・空き家や団地の一室などを居場所に整備する
- ・広報しろいで情報提供

(3) 4月19日(土) AM Cグループ

キャッチフレーズ【皆で声をかけあい、助けあえるまち】



テーマ【③地域で気軽なつながりをつくる】

■現状・課題

- ・近所に住む人と関わる機会が少ない
- ・集合住宅が増えて近所の顔がみえない
- ・自治会活動⇒自治会に興味なくなっている、自治会のつながりを求めない
- ・ボランティア活動⇒若い人の活躍が少ない
- ・若い人が忙しすぎる
- ・共働き等、若い世代が地域にでる時間・機会が少ない
- ・若い人が集まり遊べる場所がない
- ・自治会に若い人が入らない
- ・子ども・若い世代が地域で活動するという機会が少ない
- ・若い世代が集まる場所・機会少ない
- ・楽トレ体操
- ・自助共助公助のしくみ
- ・男性の参加少ない
- ・子ども中心のつながりが少なくなった
- ・定年になったら何をしたらいいかわからない

■自分・地域でやること

- ・男性への声かけ
- ・近所の人への声かけを積極的に

- ・近所の人と会ったらあいさつする
- ・高齢者を孤独にしないよう地域で声かけ
- ・登下校の時間に庭先などにでて、あいさつ・見守り
- ・自治会活動への関心を持ち、参加
- ・自治会に加入しているメリットを説明
- ・若い人が参加しやすいやり方を考える、会議は Zoom にする等

■市にお願いしたいこと

- ・子どものための企画をもっと考える
- ・高齢者のために活動するリーダーを養成
- ・教育の場でボランティア活動の時間をつくる
- ・若い世代・働く世代が興味のあるテーマなどでイベント・交流の機会をつくる
- ・親子で地域のことを考えるイベントを実施
- ・アイデアを集めて実現化⇒地域にでる機会に

テーマ【④地域に居場所がある】

■現状・課題

- ・毎回出てくる人が固定化していて新たな人が入りづらい？
- ・地区社協拠点の利用者少ない
- ・公民館⇒利用者が決まっている
- ・南山公園⇒男性が少ない
- ・公園⇒子どもが少ない
- ・移動手段がないため居場所に行けない
- ・ファミレス⇒白井市に少ない
- ・男性は働いている間に地域との関わりがなく、リタイア後の居場所に関わる人が少ない
- ・男性は女性の意見を取り入れない

■自分・地域でやること

- ・イベントや活動などで周知に力を入れる
- ・けんこうマージャンなど男性同士で楽しく集まれるイベント⇒顔つながり、集まる機会づくり
- ・住民同士の助け合い活動
- ・公園に行き女性の意見を聞く
- ・集いの場に行き、女性の意見を聞く
- ・女性も意見を進んで発信する

■市にお願いしたいこと

- ・ 連携・協働
- ・ 予算（助成金）を増やす
- ・ 公民館の「いこいの家」の市民解放
- ・ 公園あそびのイベント行う（親子・地域の人など色んな対象者で）
- ・ 公園に健康器具を置く、公園に行くメリットをつくる
- ・ 気軽に使用できる移動手段の確立
- ・ 駅前に集まりやすい施設をつくる
- ・ 活動費をつくる
- ・ 審議会など男女のバランスをとること重要

(4) 4月19日(土) PM Aグループ

キャッチフレーズ【やりたいことが叶うまち白井～やりたいことを見つけなきゃ!!】



テーマ【①地域福祉への興味・関心を広げる】

■現状・課題

- ・核家族化
- ・個人の生活が満たされているので具体的にできる事は？
- ・若い方は時間的に余裕がなくて、福祉のことを考える暇がない
- ・年代によってはそもそも考えてない
- ・福祉に関わる機会がないと関心を持ってない
- ・情報が足りていない
- ・ボランティア活動の内容とニーズが合わない
- ・ボランティアセンターの周知必要
- ・どのようなことをしていけばいいのか分からない
- ・福祉が身近に感じられない
- ・ボランティア活動が決まった事になってしまっている

■自分・地域でやること

- ・まずはご近所、自治会で顔見知りになる（つながり）
- ・講座・活動の情報を得る
- ・ボランティア情報など知り得たものを近所の方にお伝えする
- ・時間、場所にとらわれない福祉活動を探す、つくり出す
- ・自分がやっているボランティアについてもっと広く伝えていく
- ・自分が出来ることを登録する

- ・地域のサークル活動に参加する
- ・情報のアンテナを広げる
- ・情報を自分から取り入れるように意識する
- ・サービスの実行者は市民による、場所も市民から

■市にお願いしたいこと

- ・行政が市民の問題をどこまで取り上げるか
- ・行政が中心となって、市民の活動をより深めてほしい
- ・情報の発信方法を様々なニーズに合うようにする
- ・動物福祉への関心を深めてほしい
- ・車がなくなるとボランティアもできなくなる
- ・グリーンスローモビリティの宣伝、地区への導入サポート

テーマ【④地域に居場所がある】

■現状・課題

- ・ひとりでは動きにくくても誘いあえば行動できる
- ・歩いていける近さは大事
- ・予算の問題、場所の確保
- ・集まれる場所がない⇒集まれる場所がほしい！お茶お菓子不要
- ・センターでのカフェを常設にしてほしい、常設してあるところがない
- ・予定を合わせづらいので常設カフェほしい
- ・「場が必ずある」という信頼感
- ・ワーキングスペースがあると良いな
- ・公民館によっては地区に居住する人数が多い
- ・ボランティアシフト制希望
- ・場があれば集った人でボランティアのプラン立てが可能

■自分・地域でやること

- ・まずは「場」を求める市民の気運を高めて行政に訴える
- ・グリーンスローモビリティという地区の人が自主的に運行できる交通手段

■市にお願いしたいこと

- ・プレイヤーである市民によるサービスの品質管理マッチング
- ・交通網をきめ細かく整える
- ・交通の便を良くする、高齢者が活動できるように
- ・小学校の空き教室の活用

- ・ 空き家、空き部屋など使って場所（空間）を確保してほしい
- ・ コミュニティセンターの新築や複合センターの建て替え
- ・ 住民が気軽に寄れる場を適在適所に設ける
- ・ 居場所にできる場所の発信、運営方法の知恵がほしい
- ・ 新規事業を立ちあげるためのセンターづくり
- ・ 行政から働きかけて民間（市民や会社）で運営

(5) 4月19日(土) PM Bグループ

キャッチフレーズ【馬い話しの会る白井にしよう】



テーマ【②地域福祉の活動者を増やす】

■現状・課題

- ・ どうして男性は参加が少ないのか
- ・ 男が参加しづらい、いづらい
- ・ 男性は周りの人を誘えない、誘われない⇒近所に知人・友人がいない
- ・ 男性の現役時代は地域とのつながりがない
- ・ 情報不足
- ・ グランドゴルフの参加者が減っているので70代の人を増やしたい
- ・ 自治会活動をする人が減っている
- ・ 自治会をやめてしまう人が多い
- ・ 地域でお互い助け合う、それぞれが思う福祉
- ・ 地域差がある
- ・ 近所づきあいがほとんどない（家におじやましたり）
- ・ 「地域福祉」は大きすぎる（テーマとして）
- ・ 市民大学へ参加⇒同世代、近い環境の知人が増えた
- ・ 1つの活動に参加すると知人が出来て次の活動につながり、輪が広がる
- ・ 市民大学がきっかけに

■自分・地域でやること

- ・ サークル活動をつくる
- ・ 世話役が必要

- ・増やすには年齢別の活動にした方が良い
- ・できるだけ話しかける
- ・見守りをかねて犬のさんぽや花の水やり（下校時間帯）⇒知り合いを増やす

■市にお願いしたいこと

- ・イベントの時市民大学などのことを話してほしい
- ・市民大学を2年にしてほしい（なかよくなる！）
- ・男性が参加できる場をつくる

テーマ【④地域に居場所がある】

■現状・課題

- ・あるのは知っているが行くつもりがない
- ・一步も外に出ない人もいる
- ・地域のサロンはたくさん各地区にあるが、参加する人は限られている
- ・地域差あり（活動の場）南園地区
- ・既存のコミュニティに入りづらい
- ・自治会からの退会⇒高齢などで活動が難しい⇒男性が活動に参加しにくい⇒女性の団体に参加しにくい⇒コミュニティになじめない
- ・増やすには年齢別にした方が良いのでは
- ・卓球やマージャンをする場所がある
- ・サークル活動をつくる

■自分・地域でやること

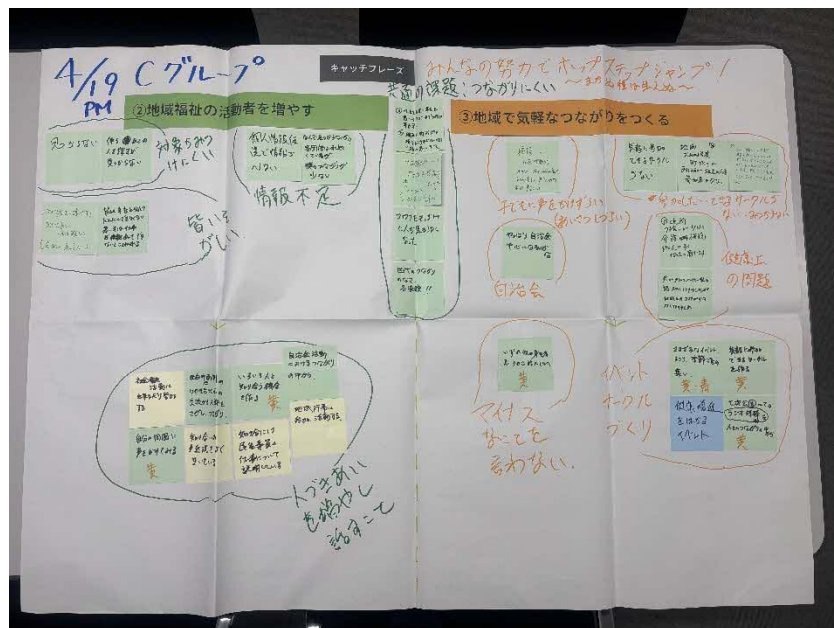
- ・1つの活動に参加すると知人ができて次の活動につながり、輪が広がる
- ・卓球やマージャンなどをする場所がある
- ・声かけみまもりをして（近所を歩く）お互いの様子をみていく手助けが必要か？
- ・地域に知人がいない
- ・歩いて行ける近所の生活を豊かに
- ・お互いに顔見知り
- ・夏祭り

■市にお願いしたいこと

- ・まちサポ（団体を紹介）

(6) 4月19日(土) PM Cグループ

キャッチフレーズ【みんなの努力でホップステップジャンプ!～まかぬ種は生えぬ～】



テーマ【②地域福祉の活動者を増やす】

■現状・課題

- ・見つからない
- ・後の人を探すが見つからない
- ・活動者を増やす!言うは易く…なかなか難しい
- ・高齢化
- ・皆さん年をとられてだんだんできなくなり、若い方は仕事があってできないと断られる
- ・個人情報保護で情報が入らない
- ・なんで見つからないか?
- ・各団体は認知しているが横のつながりが少ない
- ・現在の町内では増すところまではいってない様に思います
- ・小さな親切!大きなお世話!!(人によって好意は簡単に伝わらない)
- ・コロナをきっかけに人が集まらなくなった
- ・世代のつながりのなさ、核家族!!
- ・西白井駅南側のけやき台地区の交流から人材を探し、つながり
- ・自治会活動におけるつながりの中から

■自分・地域でやること

- ・社会活動にできるだけ参加する
- ・自分の周囲に声をかけてみる
- ・知り合いの近況をよくきいている

- ・ いろいろ人と知り合う機会をつくる
- ・ 知り合いには民生委員の仕事について説明している
- ・ 地域行事に参加、活動する

■市にお願いしたいこと

なし

テーマ【③地域で気軽なつながりをつくる】

■現状・課題

- ・ 挨拶、社会情勢からやたら馴れ馴れしく子ども連れに声をかける事は難しい…
- ・ やっぱり自治会中心になるのかな
- ・ 気軽に参加できるサークルがない
- ・ 地域、大山口小学校町づくりがありますが地元の人たち参加者が少ない
- ・ サークル活動していますが年月が過ぎるごとにメンバーが高齢になり、または亡くなられて、だんだん少なくなっています、新メンバーも勧誘していますが集まりません
- ・ 近所付き合いが少なく介護施設に行く人が多くなったと感じます
- ・ 夫がアルツハイマー型の認知になりましたが、地域とのつながりはなくなりました
- ・ 現在の町内では増すところまではいってない様に思います。
- ・ 地域のつながりはとても良い事だと思いますが、わずらわしい事も
- ・ 小さな親切！大きなお世話！！（人によって好意は簡単に伝わらない）
- ・ コロナをきっかけに人が集まらなくなった
- ・ 世代のつながりのなさ、核家族！！

■自分・地域でやること

- ・ いずれ我が身を考え、うわさ話にしない
- ・ さまざまなイベント、まつり、季節ごとの集い
- ・ 気軽に参加できるサークルをつくる
- ・ 七次公園でのラジオ体操を人とのつながりの中から

■市にお願いしたいこと

- ・ さまざまなイベント、まつり、季節ごとの集い
- ・ 健康増進を図るイベント

キャッチフレーズ【気軽に！楽しく！つながろう白井 本気（マジ）で】



■現状・課題

- ・ お声がけがない
- ・ あいさつ
- ・ 向こう三軒両隣ぐらいしか知らない
- ・ ママ友くらい
- ・ 知らない人多し
- ・ 市内の友人ができない
- ・ 知り合うきっかけがない
- ・ 時間がなく周囲の人と会う機会が少ない
- ・ 自治会がない
- ・ 必要性を感じていない
- ・ 車椅子になると引きこもるお年寄りが多い
- ・ 恥ずかしい
- ・ アウェイなところに入りにくい
- ・ 特別な活動しないとムリと思っている
- ・ 周囲とのかかわりが面倒
- ・ ご近所は一度揉めるとその後が…

- ・ 気軽にあいさつをする

- ・声をかける、犬の散歩
- ・積極的に声かけ・あいさつをする
- ・活動をする時、勧誘する
- ・誰もが気軽に参加できる、インクルーシブイベント、ボッチャやインクルーシブダンスなど
- ・集会所で「おしゃべりの会」気軽カフェをやってみる
- ・地域で楽しいイベントをする、参加する
- ・ラジオ体操

■市にお願いしたいこと

- ・市でマッチング（恋愛）の企画
- ・自治会への加入促進
- ・移動手段、もっとバスの回数とか
- ・車イスやベビーカーなど誰もが、気軽に乗れるモビリティの導入
- ・市民のアイデア企画を実現する仕組みづくり
- ・ラジオ体操

テーマ【④地域に居場所がある】

■現状・課題

- ・公園にカフェをつくる
- ・楽しい小イベントを時々行う
- ・毎週日曜日、神々廻運動公園で野球審判
- ・地域内で気軽にのれる乗り物運行、グリーンスローモビリティ
- ・なしの実ひろば
- ・アンズハウス
- ・てのひら館
- ・家とお店以外の居場所がない
- ・地域カフェに行ったことがない
- ・気軽に集える場所を知らない
- ・サロンの場所が少ない
- ・政治の話題は居場所がない
- ・共通の話題を話す場がない

■自分・地域でやること

- ・おやじサロン

■市にお願いしたいこと

- ・ 空き家を利用したサロン活動
- ・ 文化会館のカフェを営業して欲しい
- ・ 集える場所の資金的な援助
- ・ 気軽に立ちよれる場所
- ・ 住宅ばかりでなく、集う場所の計画を
- ・ 本気でやって欲しい（スローガンどまり）

(8) 4月26日(土) AM Aグループ

キャッチフレーズ【気軽なふれあいができる みどりの里づくり】



テーマ【①地域福祉への興味・関心を広げる】

■現状・課題

- ・問題点
- ・地域の幅が広すぎる
- ・災害時助けが必要な人が分からない
- ・コロナ禍で顔がみえなくなった
- ・コロナ以降、高齢の家の様子が分からない
- ・農家さん、梨家さん高齢でも働きつづける
- ・地元で働いている人が多いのはいい
- ・農道道路や地区でのポイ捨て、ゴミが多い
- ・避難所がない場合は物資をどこに集めるか
- ・物資補給の情報などよく知らない
- ・問題意識を持っていても、じゃあどうする、ともう1歩足りない
- ・地域福祉は頭がいい人がやるものだと思っている人が多い
- ・分野の割り決めがある、消防と福祉など
- ・防災訓練のレベルがやさしすぎる (知っていることばかり)

■自分・地域でやること

- ・環境問題で週一回程度の割合でゴミ拾いや旗等をなおしている
- ・まち協や地元と十分話し合う
- ・障害の必要とするサポートを伝える、活かす

- ・読み聞かせの時子どもたちへ話す活動、PTA や保護者へ促し、交流

■市にお願いしたいこと

- ・道路のでこぼこ修理（県道）を市の道路課へ連絡をした、2 ヶ月後に完了
- ・積極的に話し合いの機会を設けること！（市が中心に）
- ・訓練内容を地区と話し合う

テーマ【③地域で気軽なつながりをつくる】

■現状・課題

- ・若い世代につながるのが難しい
- ・子どもがへった
- ・若いお母さんが働いている人も多い（PTA）
- ・平日は働いている親が多く参加できない
- ・体調面で体がうごかないところがある
- ・広いため移動手段がない
- ・消防団員の数が少なくなっている
- ・地区社協の固定化
- ・介護している人、「助けて」と言いづらい、助けづらい
- ・「ちょいこま」（ちょっとこまったこと）言われないとサポートできない
- ・個人主義になっている
- ・まず入って、居続けてもらいたい
- ・「まちづくり」をかたく考えている？参加しづらい？
- ・公民センターでボッチャをやった、楽しみながらつながる

■自分・地域でやること

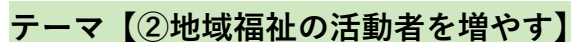
- ・子どもたちが池や川で遊んでいるので声をかける
- ・子どもたちへの気配りが大切（夕方）声かけ
- ・若い人どうしの仲間づくりを支援する
- ・近所付き合い、横のつながりをつくる
- ・自分が見守りに参加して他の人へ促す
- ・知人や興味のある人を誘う
- ・まち協や地区社協の PR 強化

■市にお願いしたいこと

- ・消防団 OB や女性消防団の創設
- ・移動手段の確保

- ・ どこでも拾ってくれる、行事のときに拾ってくれる
- ・ お祭りの場所を変えて行きやすくなった
- ・ 農家も週1休みを奨励する
- ・ 食堂やスーパーなどつくってほしい（しろいの家がなくなってしまった）

キャッチフレーズ【時代が変わっても皆んなで楽しくつながるまち】



- ・ 日々忙しく時間がない
- ・ 忙しい
- ・ 活動時間がとれない
- ・ 福祉は暇な人がやるもの
- ・ 自分の生活の外に意識や興味が向かない
- ・ 自分と関係がない
- ・ 福祉は市がやることである！
- ・ 興味・関心がない
- ・ 知識、情報が少ない、身近にない
- ・ 具体的な活動内容を発信する
- ・ どんな活動をやっているかわからない
- ・ 役員にはなりたくない
- ・ やりたくない、めんどくさい
- ・ つながる必要がないと思っている
- ・ 元気なうちは干渉されたくない
- ・ 土日限定、平日は仕事
- ・ 活動者に強く勧められたこと、時間に余裕があり参加を始めた
- ・ 時代の流れ

■自分・地域でやること

- ・曜日、時間限定で参加
- ・できる時に参加できること
- ・1日や半日使うのではなく空いている時に活動できるシステム作り
- ・興味、関心がある活動を考えて人を集める
- ・楽しいと思える活動をする
- ・啓蒙（PR）
- ・生きていくのに必要なこと
- ・助け合う楽しさ
- ・災害時

■市にお願いしたいこと

- ・若年層、子どもの頃から地域福祉に触れる機会をつくる、教育する
- ・福祉ということばでなくキャラ的な表現を使う

テーマ【③地域で気軽なつながりをつくる】

■現状・課題

- ・新住民と旧住民の壁がある
- ・昔からの慣習、つながりとは違うつながりがつくりにくい
- ・田舎は集団思考で動くので逆に巻き込まれたくない
- ・若者は住んでいる所に愛着がない
- ・田舎は集会所やセンター以外の居場所がない
- ・児童公園に児童用、高齢者用の用具があると集まりやすいと思う
- ・気軽につながれる場所・機会が少ない
- ・行きたい場所に気軽に行けない
- ・自由な公園的な場所がない
- ・幹事はやりたくない
- ・自治会の高齢化
- ・会議が多すぎる
- ・集まりに参加したくても交通の便、足がなくて参加できない
- ・気の合わない人とつながりたくない
- ・時代の流れ

■自分・地域でやること

- ・積極的に知人を誘う
- ・近所の人に興味を持つ、関わりを持つ、声かけ、あいさつ

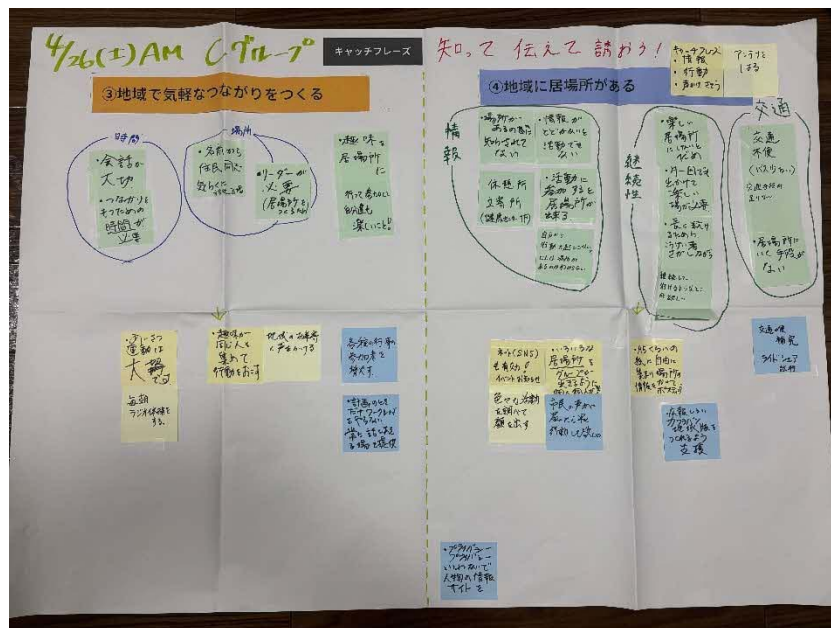
- ・身近な人への声かけ
- ・人間関係を良くして、誘える雰囲気にする
- ・あいさつの習慣
- ・日頃からあいさつする
- ・自分の地域に目を向ける

■市にお願いしたいこと

- ・農家と一緒にミニイベントを開けるように農家を啓蒙
- ・空家を利用できるように市が動く（団地でワークショップ・サロンなど）
- ・集まれる場所をつくる（カフェ・サロン等）
- ・コミュニティに参加するための足、出やすさをつくる
- ・交通手段
- ・児童の遊具、高齢者の健康器具を設置してほしい（話しもできる場所）
- ・自治会加入促進に働きかけを

(10) 4月26日(土) AM Cグループ

キャッチフレーズ【知って 伝えて 誘おう!】



テーマ【③地域で気軽なつながりをつくる】

■現状・課題

- ・ 会話が大切
- ・ つながりを持つための時間が必要
- ・ 名前から住民同士気楽に話せる場
- ・ リーダーが必要 (居場所をつくるため)
- ・ 趣味を居場所に
- ・ 行って参加して自分達も楽しいこと!

■自分・地域でやること

- ・ あいさつ運動は大切です
- ・ 毎朝ラジオ体操をする
- ・ 趣味が同じ人を集めて、行動を起こす
- ・ 地域のお年寄りに声をかける

■市にお願いしたいこと

- ・ 各種の行事の参加者を増やす
- ・ 計画のときだけワークショップをやらない、常に話し合える場を提供

テーマ【④地域に居場所がある】

■現状・課題

- ・場所があるのに知らされてない
- ・情報が届かないと活動できない
- ・休憩所、立寄所（健康センター1F）
- ・活動に参加すると居場所ができる
- ・自分から行動を起こさないとどんな場所があるのかわからない
- ・楽しい居場所にしないとだめ
- ・月一回でも出かけて楽しい場が必要
- ・長く続けるために、後継者を探しながら
- ・継続して行けるようなところが欲しい
- ・交通不便（バス少ない）
- ・交通手段が足りない
- ・居場所に行く手段がない

■自分・地域でやること

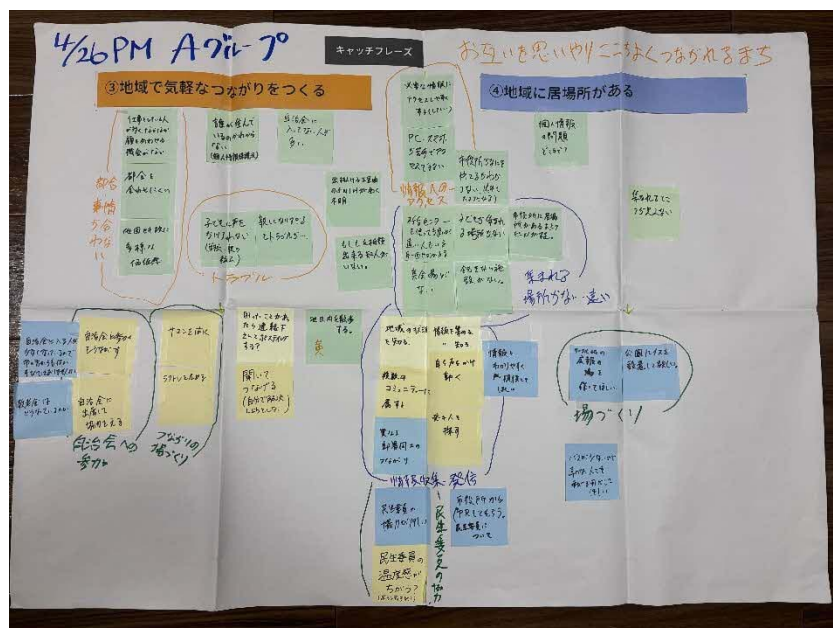
- ・ネット（SNS）も有効！
- ・イベントお知らせ
- ・色々な活動を調べて顔を出す
- ・いろいろな居場所でグループができるように個人個人が努力
- ・A5 くらいの紙に自由に集まりの場所の情報をかいて、ポスティング

■市にお願いしたいこと

- ・プライバシープライバシーといわないで人物の情報サイトを
- ・市民の声が届いたら早く行動して欲しい
- ・広報しろいのカワラバン・地域版をつくれるよう支援
- ・交通の便補完
- ・ライドシェア試行

(11) 4月26日(土) PM Aグループ

キャッチフレーズ【お互いを思いやりこちよくつながれるまち】



テーマ【③地域で気軽なつながりをつくる】

■現状・課題

- ・仕事をしている人が多く、なかなか顔をあわせる機会がない
- ・都合を合わせにくい
- ・多国籍に多様な価値観
- ・誰が住んでいるのかわからない（個人情報保護法）
- ・自治会に入っていない人が多い
- ・出かける理由の5W1Hが全く不明
- ・もしもの相談をできる知人がいない
- ・子どもに声をかけられない
- ・親しくなりすぎるとトラブルが…
- ・必要な情報にアクセスしやすくする（したい）
- ・PC・スマホが苦手アクセスできない
- ・市役所がなにをやっているかわからない（意外と頼りになる）

■自分・地域でやること

- ・自治会に参加を促す
- ・自治会に出席して協力を得る
- ・サロンを開く
- ・ラクトレを広める
- ・困ったことがあったら連絡下さいとポスティングする？

- ・聞いてつなげる（自分で解決しようとしない）
- ・地区内を散歩する
- ・地域の状況を知る
- ・複数のコミュニティに属する
- ・情報を集める、情報を知る
- ・自ら声をかけ動く
- ・発起人を探す
- ・民生委員の温度感がちがう？（ボランティア的？）

■市にお願いしたいこと

- ・自治会に入る人が少なくなっているのでは市の方からも何か手立てはありませんか
- ・敬老会はどうなっているのか
- ・異なる部署同士のつながり
- ・情報をわかりやすく提供してほしい
- ・民生委員の協力がほしい

テーマ【④地域に居場所がある】

■現状・課題

- ・必要な情報にアクセスしやすくする（したい）
- ・PC・スマホが苦手でアクセスできない
- ・市役所がなにをやっているかわからない（意外と頼りになる）
- ・個人情報の問題どこまで？
- ・集まれるところがない
- ・桜台センターを使ってもよいが遠い人もいる
- ・月一回サロンがある
- ・集会場がない
- ・子どもが集まれる場所がない
- ・飽きない施設がない
- ・市役所に、居場所があるよとアピールが不足

■自分・地域でやること

- ・地域の状況を知る
- ・複数のコミュニティに属する
- ・情報を集める、情報を知る
- ・自ら声をかけ動く
- ・発起人を探す

■市にお願いしたいこと

- ・サークル etc の広報の場を作ってほしい
- ・公園にイスを設置して欲しい
- ・バスが少ないので車のない人でも動けるようにしてほしい
- ・市役所から民生委員について PR してもらう
- ・異なる部署同士のつながり
- ・情報をわかりやすく提供してほしい

(12) 4月26日(土) PM Bグループ

キャッチフレーズ【人と人とのバリアフリー】



テーマ【①地域福祉への興味・関心を広げる】

■現状・課題

- ・我が事として捉えられない
- ・困ってない
- ・年齢によって興味あり、なしが分かれている
- ・障害者とか高齢者のイメージしかない
- ・難しそう
- ・福祉の幅が広くて難しい
- ・まだ仕事中心で時間がない
- ・忙しくて時間がない
- ・自治会の参加
- ・回覧板を見ない
- ・知る手段が少ない
- ・他の集まりを知らない
- ・情報を取りにいくより、送ってもらった方がみるかも

■自分・地域でやること

- ・福祉祭りを行う
- ・できるものからできる時に参加する
- ・公園など地域に足を運んでみる（イベント限らず）
- ・まず足を運んでみる（イベント等）

- ・自治会の行事への参加
- ・活動を SNS 等で発信する
- ・ラインの活用
- ・自治会活動は若い人に任せる、ベテランはアドバイス程度
- ・やらされる側ではなくやる側に
- ・あいさつ

■市にお願いしたいこと

- ・自治会活動の積極化の指導
- ・高齢者クラブへの参加・広報

テーマ【④地域に居場所がある】

■現状・課題

- ・男性高齢者の参加
- ・独居高齢者の話し合いの場所
- ・自分から関わるのが苦手
- ・すでにコミュニティができている
- ・一人が好き
- ・歩いて行ける場所が少ない
- ・小さい子どもを連れて立ち寄る場所がない
- ・子ども連れでも行ける場所が限られてしまう
- ・行けない（行きたくても）
- ・趣味が少ない、興味がない
- ・ほめてもらえる場所・集まり（特に男性）がない
- ・居場所は提供されるものではなく作るもの！

■自分・地域でやること

- ・自治会の広域連携、イベント開催
- ・あいさつ
- ・先生になれる場所（能力を活かす）
- ・近くの人から誘ってみる
- ・子ども連れ OK の企画
- ・子ども食堂で交流

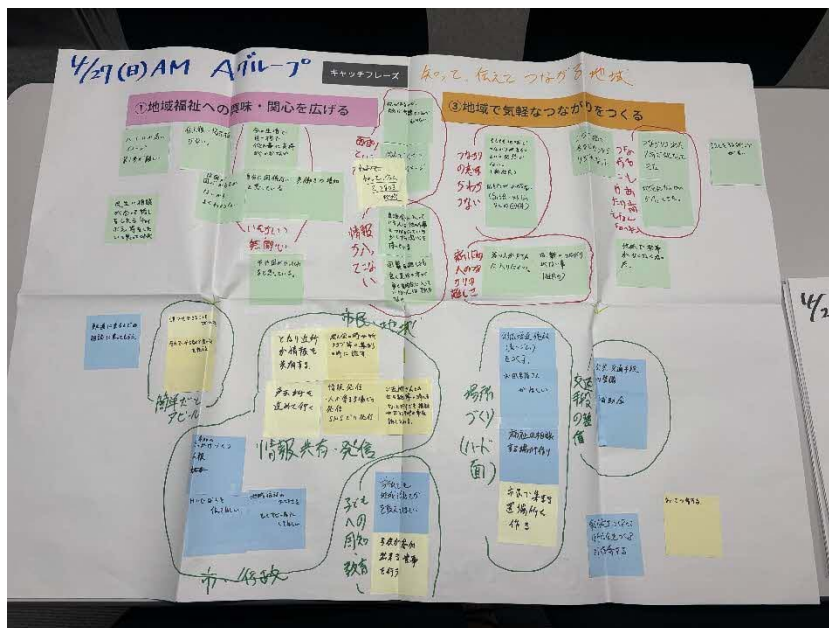
■市にお願いしたいこと

- ・高齢者クラブへの参加広報

- ・子ども連れ OK の企画
- ・防災との連携（空家の活用）、備蓄など
- ・子ども食堂で交流
- ・空き家情報の提供
- ・空き家を利用したサロンなど
- ・補助金制度の整備（空き家関係）
- ・集まれる場所の提供（駅に近い所）
- ・広い駐車場・道路等のバリアフリー
- ・交通手段（返納後も行けるように）
- ・桜台地区で行える会議

(13) 4月27日(日) AM Aグループ

キャッチフレーズ【知って、伝えて つながる地域】



テーマ【①地域福祉への興味・関心を広げる】

■現状・課題

- ・ハードルが高いイメージ
- ・第1歩が難しい
- ・民生に相談が会って話しをしたら「チョイボラ」等をしたと思ってくれた
- ・伝言板、掲示板がない
- ・今の生活で目一杯なので他の事に気持ちがいかない
- ・周囲の人が関心あるかないかもよくわからない
- ・自分に関係ないと思っている
- ・共働きの増加
- ・市や国がやってくれると思っている
- ・何があるのか、自分が参加できるのか知らない
- ・面倒くさいというイメージがある
- ・自治会に入っている人は他の人とつながっていき少しずつ関心を持っている
- ・回覧しても良く見ない方が多く自治会に入っていない人はそれもない

■自分・地域でやること

- ・誰でもできることをアピールする
- ・全力でやらなくて良いことを伝える
- ・となり近所が情報を共有する
- ・声かけを進めていく

- ・老人会の時や GG クラブ等の集まりの時に話す
- ・情報発信、人が集まる場での発信、SNS での発信
- ・ご近所さんとの立ち話等の時にちょっとだけでも福祉やボランティアの事を話してみる
- ・子どもが参加できる行事を行う

■市にお願いしたいこと

- ・軌道に乗るまで相談に乗ってもらう
- ・参加のきっかけづくり、広報
- ・掲示板を作ってほしい
- ・地域福祉の大切さをもっとアピールしてほしい
- ・学校でも地域活動とかを教えてほしい

テーマ【③地域で気軽なつながりをつくる】

■現状・課題

- ・そもそも地域でつながりをもつという発想がない（新住民）
- ・目的がわからない（自治会・まち協などの団体）
- ・若い人が PTA に入りにくい
- ・旧、新のつながりがないこと（住民の）
- ・コロナ禍で今までのつながりがなくなった
- ・つながりがあたり前でなくなってきた
- ・地区社協加入が減ってきた
- ・地域で祭事が少なくなった
- ・話しをするタイミングがない
- ・何があるのか、自分が参加できるのか知らない
- ・面倒くさいというイメージがある
- ・自治会に入っている人は他の人とつながっていき少しずつ関心を持っている
- ・回覧しても良く見ない方が多く自治会に入っていない人はそれもない

■自分・地域でやること

- ・市民で集まる居場所をつくる
- ・あいさつする
- ・子供が参加できる行事を行う

■市にお願いしたいこと

- ・健康増進施設（軽いジム）をつくる
- ・お風呂屋さんがほしい

- ・福祉の相談する場づくり
- ・公共交通手段の整備
- ・補助金
- ・集合住宅をつくるときは自治会をつくるよう指導する
- ・学校でも地域活動とかを教えてほしい

(14) 4月27日(日) AM Bグループ

キャッチフレーズ【多くの人が気軽に参加「はじめての一步」が大切】



テーマ【②地域福祉の活動者を増やす】

■現状・課題

- ・活動によく参加する人と参加しない人
- ・やりたくても何を手伝えるのかわからない
- ・活動に来てくれた人にどう声をかけるか（テントはりなど）
- ・若い人が少しずつ手伝ってくれるようになっていく
- ・（参加のきっかけ）地区社協の「歩こう会」、バーベキュー
- ・地域の人との交流、楽しい
- ・活動内容を知らせたい
- ・広報の活用（見てもらえるようにする）
- ・地域福祉とは？まず地域住民に知ってもらおう
- ・自治会の高齢化
- ・外に出ない人が多い
- ・高齢の男性が家の中から出てきにくい
- ・横の連携（地区社協、自治会、町づくり協…）
- ・地域の人を知らない

■自分・地域でやること

- ・自治会に入っていない人も見れる方法を考える
- ・活動を楽しむ！
- ・活動結果を広報する

- ・活動の良いところアピール
- ・ボランティア活動は自身の活性化になる！
- ・キープレイヤーとつながる
- ・民生委員から地域にかかわる
- ・だれでも気軽に初めの一步
- ・ほめて、おだてて、育てる
- ・誰に相談すればよいか知る

■市にお願いしたいこと

- ・活動人数を増やすことで柔軟性が上がる

テーマ【③地域で気軽なつながりをつくる】

■現状・課題

- ・若い世代をいかにとり込むか？⇒興味をもってもらう
- ・イベントのPRが足りない（こいのぼり祭り）
- ・活動のきっかけがない
- ・話すきっかけがない
- ・まずあいさつ
- ・声かけ（防犯にもなる）
- ・ちょいボラ
- ・誰でも出来そうなこと
- ・自治会ごとのつながり
- ・自治会に入っていない人
- ・自治会役員が1年交代で継続が難しい
- ・交通の便利性
- ・駅までのバスがほしい、福祉タクシーは高い

■自分・地域でやること

- ・楽しそう
- ・買物のお手伝い⇒ライドシェア ex) 移動スーパー
- ・役員の負担軽減（自治会）
- ・負担に感じない活動を考える

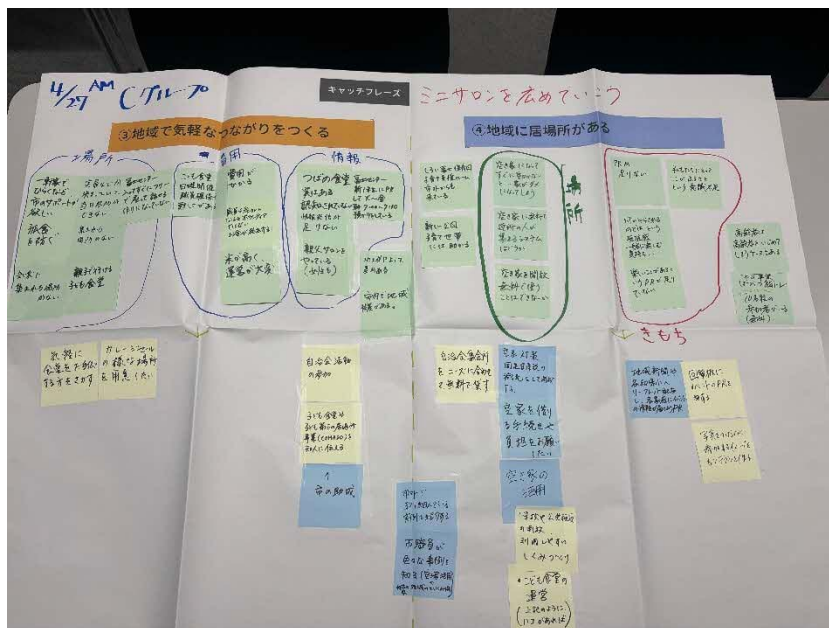
■市にお願いしたいこと

- ・ナッシー号のルート・規模（小型）化、変更
- ・日中のバスを増やす

- ・自治会加入促進を強化、必要性周知
- ・自治会に入っていない人への周知（ゴミ出し、地域活動の報告など）
- ・災害時の安否確認

(15) 4月27日(日) AM Cグループ

キャッチフレーズ【ミニサロンを広めていこう】



テーマ【③地域で気軽なつながりをつくる】

■現状・課題

- ・一軒家でひらくなど、市のサポートが欲しい
- ・孤食を防ぐ
- ・気楽に集まれる場所がない
- ・定員などが決まっていて当日参加ができない
- ・集まれる場所がない
- ・親子で行ける子ども食堂
- ・富士センター、入ってすぐにフリーで座って話せる作りになっていない
- ・こども食堂は日曜開催、職員確保で難しさがある
- ・費用がかかる
- ・職員が参加となるとボランティアではない、お金が発生する
- ・米が高く、運営が大変
- ・つばめ食堂、実はある、認知されていない
- ・情報発信が足りない
- ・親父サロンをやっている（女性も）
- ・富士センター、新1年生にPRして火～金朝7:00～7:30 預かりをしている
- ・地域によって差がある
- ・市内で地域格差がある

■自分・地域でやること

- ・気軽に食堂をお手伝いする方を探す
- ・ガレージセールの様な場所を用意したい
- ・自治会活動の参加
- ・子ども食堂や子ども第三の居場所事業（CoMADO）を知人に伝える

■市にお願いしたいこと

- ・市の助成
- ・市外で取り組んでいる事例を紹介する
- ・市職員が色々な事例を知る（空き家活用や他市県の地域の取組例）

テーマ【④地域に居場所がある】

■現状・課題

- ・しろい富士保育園、子育て支援ルーム市外からも来ている
- ・新しい公園は子育て世帯には助かる
- ・空き家になってすぐに動かないと…家がダメになってしまう
- ・空き家に無料で近所の人が集まるシステムはどうか
- ・空き家を開放し、無料で使うことはできないか
- ・PR が足りない
- ・子どもたちにとってここがふるさとという意識不足
- ・何かやらされるのではという抵抗感、一緒に楽しむ気持ち
- ・楽しいことがあるという PR が足りていない
- ・高齢者は高齢者をいじめてしまうケースもある
- ・市の事業はつらつ脳トレ⇒タダで使える集会所、10 名程の参加者がいる（無料）

■自分・地域でやること

- ・自治会集会所をニーズに合わせて無料で貸す
- ・学校や公共施設の開放、利用しやすいしくみづくり
- ・こども食堂の運営（上記のようにハコがあれば）
- ・回覧板でイベントの PR をする
- ・写真をつけるなど参加するイメージをもつチラシを作る

■市にお願いしたいこと

- ・空き家対策、固定資産税の減免をして開放する
- ・空き家を借りる手続きや負担をお願いしたい
- ・空き家の活用

- ・ 地域新聞や各幼保小へリーフレットを配布し、各家庭にイベントの情報が届くよう PR
- ・ 市外で取り組んでいる事例を紹介する
- ・ 市職員が色々な事例を知る（空き家活用や他市県の地域の取組例）

(16) 4月27日(日) PM Aグループ

キャッチフレーズ【まずは声をかけてみよう!!】



テーマ【①地域福祉への興味・関心を広げる】

■現状・課題

- ・イメージが一人一人違う
- ・小さな親切、大きなお世話になるかなと迷う
- ・地域福祉という言葉が重い
- ・一歩が踏み出せない
- ・白井では、本家、分家のつながりがあるため情報が塞がれている？
- ・白井では、地区ごとに集会自治会はあるが、交流少ない？
- ・高齢者住宅が増えているがコミュニケーションがない？
- ・根深い地元と新居住者のギャップがある
- ・アドバイザーが少ない
- ・広報やおじろ新聞など掲載は新聞をとっている人など限られているかな？
- ・子育て(中堅)世代の参加少ない(関心持つテーマ)
- ・子ども、若手の参加少ない(関心持つテーマ)
- ・リーダーシップの高齢化
- ・子育て世代の集う場所がない
- ・次世代の人たちの居場所

■自分・地域でやること

- ・身近な方々と話す機会つくる(興味関心を知る)
- ・あいさつはこちらから

- ・ LINE などの手段をつかう
- ・ 伝える、伝わる手段（インターネット、LINE、掲示板）
- ・ 女性の声を反映
- ・ 知人と一緒に参加
- ・ 趣味で広げる仲間作り
- ・ ポジティブにチャレンジ
- ・ 困っている人をみかけたら助けをすぐ出す勇気
- ・ リーダーの育成
- ・ 中・高生の声を反映
- ・ 回覧板等で周知する

■市にお願いしたいこと

- ・ 市の窓口はまた行きたくなるような受入れを（あいさつ、表情）（他の職員も）
- ・ 回覧板のネット化（可能な情報）
- ・ 白井市は女性の議員が多いので、意見をもっと出してほしい（女性ならではの）
- ・ 市民の声（全て）に市の（検討結果の）回答を広報
- ・ 回覧板、市の広報はネット可能なものはネット配信を
- ・ 公民館などサークル活動のチラシはあるが買い物などをする場に少ない

テーマ【④地域に居場所がある】

■現状・課題

- ・ 子育て（中堅）世代の参加少ない（関心持つテーマ）
- ・ 子ども、若手の参加少ない（関心持つテーマ）
- ・ リーダーシップの高齢化
- ・ 子育て世代の集う場所がない
- ・ 次世代の人たちの居場所
- ・ 集会所の利用の仕方を知らない
- ・ あるのはあるが知らない
- ・ 集会所知っているが有料で使いづらい
- ・ 知らない人とは関わりたくない
- ・ 近所の人と集まることが少なくなった
- ・ ボランティアで高齢者をもてなしている
- ・ センターに年代別の居場所がある

■自分・地域でやること

- ・ 知人と一緒に参加

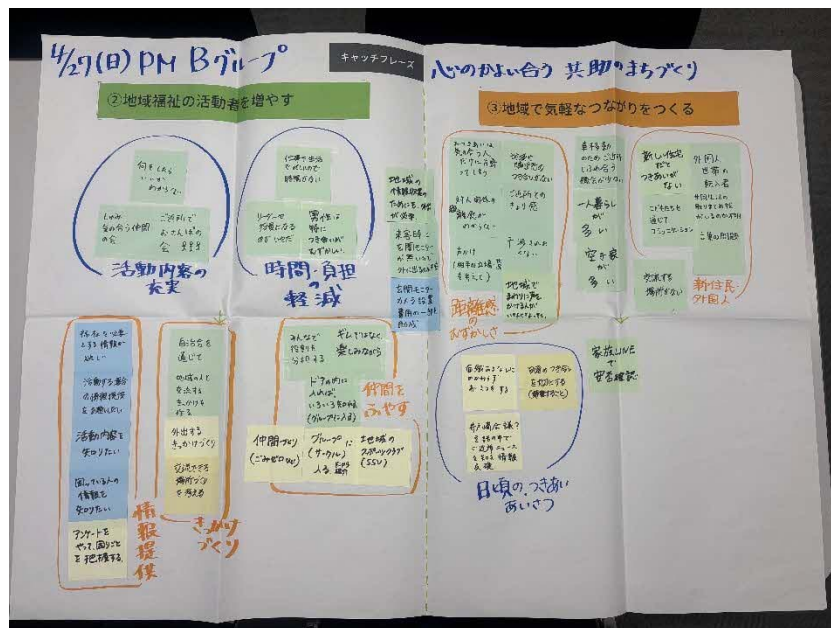
- ・趣味で広げる仲間作り
- ・ポジティブにチャレンジ
- ・困っている人をみかけたら助けをすぐ出す勇気
- ・リーダーの育成
- ・中・高生の声を反映
- ・年齢問わずあいさつをする
- ・あいさつをする
- ・隣近所の付き合い、声かけ
- ・あいさつ率先（声は人間関係の肥になるのでは）
- ・地元への働き口を増やす
- ・相手の話、事情を聞く
- ・公園に居場所と息抜き（テーブル、いす、ママたちの集い、赤ちゃん）
- ・公園等、共有場の草とり、そうじなど⇒仲間づくりへ
- ・ゴミ出しのマナーを守る

■市にお願いしたいこと

- ・あいさつ率先（声は人間関係の肥になるのでは）
- ・地元への働き口を増やす
- ・公園に居場所と息抜き（テーブル、いす、ママたちの集い、赤ちゃん）
- ・空き地を利用する（集いの場作り）

(17) 4月27日(日) PM Bグループ

キャッチフレーズ【心のかよい合う 共助のまちづくり】



テーマ【②地域福祉の活動者を増やす】

■現状・課題

- ・何をしたらいいかわからない
- ・趣味、気の合う仲間の会
- ・ご近所でおさんぽの会
- ・仕事や生活で忙しいので時間がない
- ・リーダーや役員になるのがいやだ
- ・男性は特に付き合いがむずかしい
- ・地域の情報収集のためにも、外出が必要
- ・来客時に玄関モニターが無いので外に出るのが不安

■自分・地域でやること

- ・自治会を通じて地域の人と交流するきっかけを作る
- ・アンケートをやって、困りごとを把握する
- ・外出するきっかけづくり
- ・交流できる場所づくりを考える
- ・仲間づくり（ごみゼロなど）
- ・グループに（サークル）入る、そこから紹介
- ・地域のスポールクラブ（SSV しろいスポーツヴィレッジ）
- ・みんなで役割を分担する
- ・義務ではなく、楽しみながら

- ・ドアの内に入れば、いろいろ知れる（グループに入る）

■市にお願いしたいこと

- ・玄関モニター、カメラ設置、費用の一部を助成
- ・福祉を必要とする情報が欲しい
- ・活動する場合の情報提供をお願いしたい
- ・活動内容を知りたい
- ・困っている人の情報を知りたい

テーマ【③地域で気軽なつながりをつくる】

■現状・課題

- ・地域の情報収集のためにも、外出が必要
- ・来客時に玄関モニターが無いので外に出るのが不安
- ・おつきあいは気の合う人だけに片寄ってしまう
- ・地域や隣近所の付き合いがない
- ・対人関係の距離感がわからない
- ・ご近所との距離感
- ・声かけ（相手の立場・状況を考えて）
- ・干渉されたくない
- ・地域でまわりに声をかける人がいなくなった
- ・車移動のためご近所と触れ合う機会が少ない
- ・一人暮らしが多い
- ・空き家が多い
- ・新しい住宅だとつきあいがない
- ・外国人世帯の転入者
- ・子どもたちを通じてコミュニケーション
- ・共同生活の取りまとめ役がいるのか不明
- ・言葉の問題
- ・交流する場所がない

■自分・地域でやること

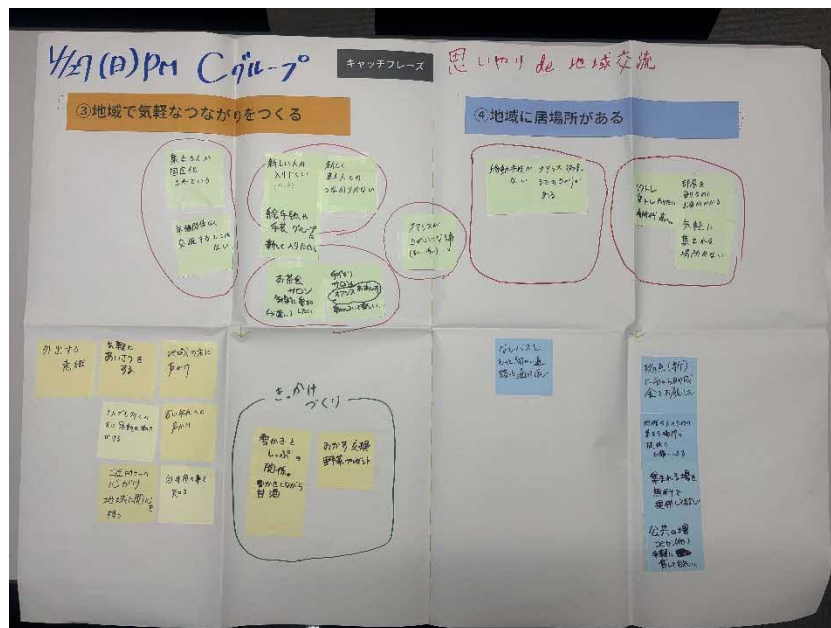
- ・面識あるなしに関わらずあいさつをする
- ・日頃の付き合いを大切にする（尊重すること）
- ・井戸端会議？立話の中でご近所ニュースを知る、情報交換
- ・家族 LINE で安否確認

■市にお願いしたいこと

- ・ 玄関モニター、カメラ設置、費用の一部を助成

(18) 4月27日(日) PM Cグループ

キャッチフレーズ【思いやり de 地域交流】



テーマ【③地域で気軽なつながりをつくる】

■現状・課題

- ・集まる人が固定化されている
- ・年齢関係なく交流するところがない
- ・新しい人が入りにくい（サロン等）
- ・新しく来た人とのつながりがない
- ・絵手紙や手芸グループに新しく入りにくい
- ・お茶会サロン、気軽に参加したい（遠い）
- ・手作りサロン、オアシスおあしす、参加していて楽しい
- ・オアシスがきれいになること（古い、汚い）

■自分・地域でやること

- ・外出する意識
- ・気軽にあいさつをする
- ・地域の方に声かけ
- ・1人でも多くの方に「活動」を働きかける
- ・若い年代への声かけ
- ・ご近所さんへ心がけ、地域に関心を持つ
- ・白井市の事を知る
- ・雪かきとしっふの関係
- ・おかず交換

- ・野菜プレゼント
- ・雪かきしながら甘酒

■市にお願いしたいこと

なし

テーマ【④地域に居場所がある】

■現状・課題

- ・オアシスがきれいになること（古い、汚い）
- ・移動手段がない
- ・オアシス拠点までの距離がある
- ・楽トレやりたい、場所代高い
- ・部屋を貸りるのにお金がかかる
- ・気軽に集まれる場所がない

■自分・地域でやること

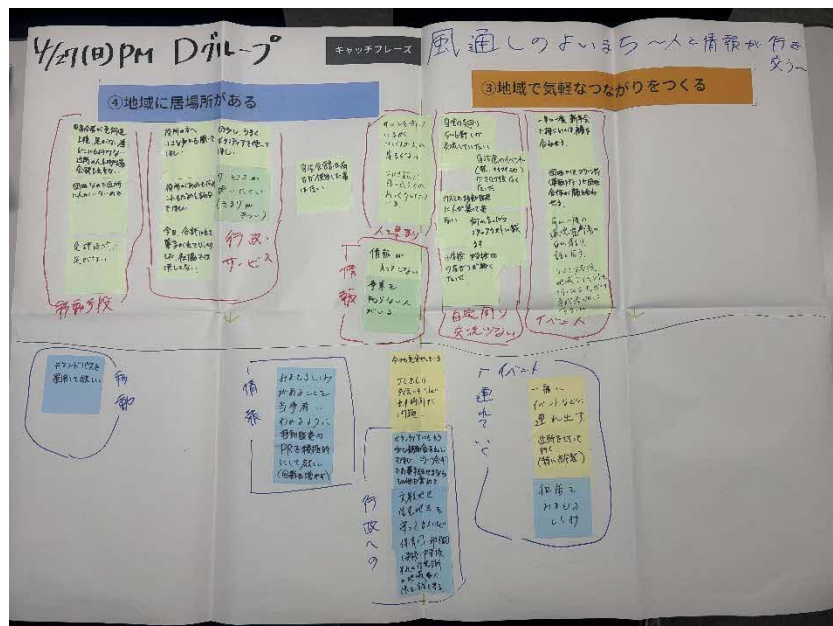
なし

■市にお願いしたいこと

- ・ナッシー号、もっと細かい道路も通ってほしい
- ・拠点（新）に市から助成金をお願いしたい
- ・地域の人のための集まる場所の提供をお願いします
- ・集まれる場を、無料で提供して欲しい
- ・公共の場、コミセン（他）を手軽に貸して欲しい

(19) 4月27日(日) PM Dグループ

キャッチフレーズ【風通しのよいまち～人と情報が行き交う～】



テーマ【③地域で気軽なつながりをつくる】

■現状・課題

- ・自宅のまわり5～6軒しか交流していない
- ・自治会のイベント（祭、もちつき etc）がコロナ後なくなった
- ・カスミの移動販売に人が集まってこない
- ・何か言ったらブラックリストに載る？
- ・小学校、中学校のつながりが無くなった
- ・一年に一度、新年会で棟ごとには顔を合わせる
- ・団地では、グリーンデイ（草取りデー）で団地全体が顔を合わせる
- ・月に一度の環境整備の日に集まり、話し合う
- ・コロナ禍後、地域でイベントを行なったら大勢の方が参加して下さった

■自分・地域でやること

- ・今でも充分やっている
- ・ゴミ出しの手伝いをしたい、出す時間が問題
- ・一緒にイベントなどに連れ出す
- ・近所を誘って行く（特に高齢者）

■市にお願いしたいこと

- ・ボランティアにももう少し補助金を出してほしい、こういう会議でお菓子を出せるならその他も含めて

- ・文教地区、住宅地区を守ってもらいたい
- ・保育園、幼稚園、小学校、中学校それに住宅街地域の緑と、安全を守る
- ・独居を見守るしくみ

テーマ【④地域に居場所がある】

■現状・課題

- ・高齢者が免許返上後、足がないためどこにも行けない、近所の人と井戸端会議もできない
- ・団地なので近所に人がいない
- ・免許返納で足がない
- ・役所の方へ 小さな声でも聞いてほしい
- ・もう少し、うまくボランティアを使ってほしい
- ・役所があればこれこれと言わないでほしい
- ・サービスが使いにくい（きまりがきつい）
- ・今日、会議に出て菓子が出てびっくりした、社協では決していない
- ・自治会館はあるが使用したことはない
- ・サロンを開いているがなかなか人が集まらない
- ・コロナ禍で外に出るのが億劫となっている
- ・情報が入ってこない
- ・事業を知らない人がいる

■自分・地域でやること

- ・今でも充分やっている
- ・ゴミ出しの手伝いをしたい、出す時間が問題

■市にお願いしたいこと

- ・デマンドバスを運用して欲しい
- ・見守るしくみがあることを当事者にわかるように
- ・移動販売のPRを積極的にして欲しい（回数を増やす）
- ・ボランティアにももう少し補助金を出してほしい、こういう会議でお菓子を出せるならその他も含めて
- ・文教地区、住宅地区を守ってもらいたい
- ・保育園、幼稚園、小学校、中学校それに住宅街地域の緑と、安全を守る

6 テーマごとのまとめ

選定状況

	テーマ	選んだグループ数
①	地域福祉への興味・関心を広げる	6
②	地域福祉の活動者を増やす	6
③	地域で気軽なつながりをつくる	14
④	地域に居場所がある	12

テーマ【①地域福祉への興味・関心を広げる】

■現状・課題

<地域福祉に対する心理的障壁>

- ・ 福祉活動が「楽しくない」「負担」「難しそう」「面倒くさい」というイメージがある
- ・ 「自分ごと」として捉えられない、自分に関係ないと思っている人が多い
- ・ 第一歩を踏み出せない、ハードルが高いイメージがある
- ・ 「福祉」という言葉自体が重く感じられている
- ・ 高齢者・障害者に限定されたイメージがある

<情報と機会の不足>

- ・ 福祉に関する情報が不足している、または届いていない
- ・ 何ができるのか、どのように参加できるのかわからない
- ・ ボランティアセンターの周知が不十分

<時間的・生活的制約>

- ・ 共働き世帯や若い世代は時間的に余裕がない
- ・ 現在の生活で精一杯で他のことに気持ちが向かない
- ・ 年代によって関心度に差がある

<地域のつながりの希薄化>

- ・ 地元住民と新居住者の間にギャップがある
- ・ コロナ禍による顔の見えない関係
- ・ 核家族化・共働き家庭の増加により、地域への関与が難しい

■自分・地域でやること

<情報発信と共有の強化>

- ・ SNS や LINE などツールを活用した情報発信・収集
- ・ 知り得た情報を近所の人に伝える
- ・ 活動の様子を SNS で発信する
- ・ 掲示板の設置・活用

<つながりの構築>

- あいさつから始める近所づきあい
- 自治会行事への積極的参加
- 地域のサークル活動に参加する
- 声かけを進めていく

<参加のハードル下げ>

- 「できることを、できるときに」という考え方の普及
- 「全力でやらなくていい」ことを伝える
- 誰でもできることをアピールする
- 知人と一緒に参加する
- 自分がやっていることを周囲に伝える（良い循環のきっかけに）

<次世代の参画促進>

- 子どもが参加できる行事の開催
- 子育て世代や若者が関われる場づくり
- リーダーの育成

■市にお願いしたいこと

<情報発信の改善>

- 福祉そのものをわかりやすく発信
- 様々なニーズに合わせた情報発信方法の工夫
- ネット・紙両方での広報（回覧板のネット化など）
- 若者・子育て世代に届くような手段の工夫

<相談・支援体制の充実>

- 困ったときにすぐ相談できる明確な窓口の設置
- 気軽に相談できる窓口・雰囲気づくり

<市民活動の促進と環境整備>

- 市民の声を聞く場や積極的な話し合いの機会の設定
- 地区や自治会と連携した防災訓練・地域活動
- 福祉を考える機会や場づくりの推進（学校や公共施設など）

地域福祉への関心を広げるためには、福祉や地域活動のイメージの改善、情報発信の強化、参加しやすい環境づくりが求められています。特に福祉を「自分ごと」として考えられる工夫と、年齢やライフスタイル合わせた多様なアプローチが大切です。

テーマ【②地域福祉の活動者を増やす】

■現状・課題

<福祉に関する認識と理解の不足>

- 福祉を身近に感じている人が少ない
- 福祉そのものを知らない人が多い
- 福祉の必要性を理解していない人が多い
- 「地域福祉」というテーマが大きすぎて捉えにくい

<情報不足と活動の見えにくさ>

- どんな参加可能活動があるか知られていない
- 自分にどのような活動ができるかわからない
- 活動の良さや楽しさが伝わっていない
- 具体的な活動内容が見えていない
- 各団体は認知されているが横のつながりが少ない

<地域コミュニティの希薄化>

- 自治会活動をする人が減少している
- コロナをきっかけに人が集まらなくなった
- 「つながる必要がない」「干渉されたくない」という意識
- 核家族化や高齢化により地域の関係性が弱くなっている
- 高齢化により活動者が減少している

<時間・心理的ハードル>

- 現役世代や子育て世代の忙しく時間がとれない
- 男性の参加が少ない（地域とのつながりが薄く、誘う・誘われる機会がない）
- 役員になることへの抵抗感
- 初めて会う人との活動への不安
- 何をしてよいかわからず、一歩が踏み出しにくい

■自分・地域でやること

<知る・つながるきっかけづくり>

- 福祉について調べる、勉強する
- 実際に活動している人のブログを見たり、話を聞いたりして関心を深める
- 気軽に1回参加してみる、小さな活動から始める

<人のつながりを広げる工夫>

- 声かけや誘い合いで仲間を増やす
- できるだけ話しかける機会を作る
- 見守りをかねた犬の散歩や花の水やり
- サークル活動や趣味を通じて交流

<参加しやすい活動の工夫>

- 短時間・スキマ時間で参加できるシステム作り
- 興味・関心がある活動を考えて人を集める
- 楽しいと思える活動を設計する

<地域活動への積極参加>

- 自治会への参加促進
- 活動を“義務”でなく“楽しみ”として捉える
- 夏祭りなどの地域行事に参加・手伝い
- サークル活動をつくる
- みんなで役割を分担する

<活動の魅力発信>

- 活動の成果や魅力を広報・発信する（SNS など）
- 「つながりが広がると嬉しい」「助け合う楽しさ」を意識した行動

■市にお願いしたいこと

<情報発信の強化>

- 市ホームページや広報以外に SNS などを使った発信
- 市公式 LINE を活用した情報提供
- 活動内容・福祉の必要性をビジュアルで伝える
- “伝わる”工夫を（身近な表現、キャラクターなど）

<参加機会の拡充>

- 男性が参加できる場の創出
- 子どもの頃から地域福祉に触れる機会の提供
- 市民大学の期間延長（2年に）によるつながり強化（関係づくりの場として）
- 外出のきっかけづくりへの支援

<環境整備への支援>

- 安心して外出できる環境づくり
- 交流できる場所づくりの支援
- 地域の困りごとの把握（アンケート実施など）
- 地域住民の「やってみよう」を応援する仕組みづくり
- 活動情報・必要な支援情報の提供（困っている人の情報も含む）。

地域福祉の活動者を増やすためには、情報発信の強化、参加しやすい環境・仕組みづくり、つながりの促進、活動の意義や楽しさの共有が求められています。特に、年齢やライフスタイル、興味関心に合わせた多様なアプローチと、「楽しさ」「やりがい」を感じられる活動設計が大切です。

テーマ【③地域で気軽なつながりをつくる】

■現状・課題

<地域コミュニティの希薄化>

- 自治会の衰退、自治会に興味がなくなっている
- あいさつ・声かけなど、日常的な交流が減っている
- 近所に誰が住んでいるかわからない、知る機会がない
- そもそも地域でつながりを持つという発想がない
- コロナ禍でつながりが絶たれ、再構築が難しい

<ライフスタイルの変化と時間的制約>

- 共働きや若い世代が地域に出る時間・機会が少ない
- 忙しすぎて自分のことでいっぱい
- スマホの普及で地域ではない別のコミュニティへ関心が向く

<世代間・属性間のギャップ>

- 若い世代の参加が少ない（自治会、ボランティア活動など）
- 男性の参加が少ない
- 子ども中心のつながりが少なくなった
- 多様な価値観への対応

<つながる場所・機会の不足>

- 気軽に参加できるサークルがない
- 気楽に集まれる場所がない、交流する場所がない

<つながりへの心理的障壁>

- 防犯的意識の高まりによる警戒心
- 気軽さの加減がわかりにくい
- アウェイ感、恥ずかしさ、個人主義が進行
- 干渉されたくない、プライバシーへの懸念

<情報の不足>

- 何があるのか、自分が参加できるのか知らない
- 活動のきっかけや情報が届かない、知っていても参加の敷居が高い
- PC・スマホが苦手でアクセスできない

<移動手段の不足>

- 集まりに参加したくても交通の便、足がなくて参加できない

■自分・地域でやること

<日常の小さなつながりを大切にする>

- あいさつ・声かけを習慣にする（ゴミ出し時、散歩中など）
- 高齢者を孤独にしないよう地域で声かけ
- 子どもの登下校時に見守り・声かけ

<活動への一步を踏み出すための工夫>

- 気軽に参加できるサークルをつくる
- 地域で楽しいイベントを企画・参加
- 若い人が参加しやすいやり方を考える（オンライン会議など）
- 役員の負担軽減（自治会）
- 負担に感じない活動を考える
- インクルーシブなイベント（誰でも参加しやすい形）を実施する

<つながりの輪を広げる工夫>

- 知人や興味のある人を誘う
- まち協や地区社協のPR強化
- 近所の人に興味を持ち、関わりを持つ
- 複数のコミュニティに属して情報を得る、広げる
- 趣味が同じ人を集めて行動を起こす

<情報収集と共有>

- 地域の状況を知る、地区内を散歩する
- 情報を集める、白井市のことを知る
- 井戸端会議や立ち話で情報交換

<小さな助け合いの実践>

- ゴミ出しや買い物のお手伝い
- おかず交換や野菜のプレゼント

■市にお願いしたいこと

<交流の場・機会の創出>

- 若い世代・働く世代、親子が興味を持てるイベント・交流機会の創出
- 高齢者・子ども双方が集える公園整備（遊具や健康器具の設置）
- 様々なイベント、まつり、季節ごとの集いの実施
- 集まれる場所（カフェ・サロン等）の設置
- 空き家の利活用

<移動手段の充実>

- 高齢者・子育て世帯も使いやすいモビリティ（福祉タクシー、コミュニティバス等）の整備
- ナッシー号のルートや運行回数の見直し
- コミュニティに参加するための移動手段の確保

<自治会活動の支援強化>

- 自治会加入促進の強化、必要性の周知
- 責任にとらわれない仕組み作り

<情報提供と人材育成>

- 市職員が様々な事例を知る（空き家活用や他市県の地域の取組例）

- イベント・活動の情報をわかりやすく多様な媒体で発信（LINE・SNS など）
- 地域の事例紹介、市外の成功例も積極的に紹介

<経済的支援・仕組みづくり>

- 地域活動への助成金の拡充
- 市民のアイデアを実現する制度（提案型補助金など）
- 誰でも相談できる福祉窓口やマッチング機能の提供

地域で気軽なつながりをつくるためには、日常的なあいさつ・声かけの促進、多世代が参加しやすい場づくり、情報発信の強化、移動手段の確保、楽しみながら参加できる活動の工夫が大切です。特に若い世代や男性が参加しやすい環境づくりが求められています。

テーマ【④地域に居場所がある】

■現状・課題

<場所の不足と利用しにくさ>

- 気軽に集まれる場所が全般的に不足している
- 子ども・若者向け、高齢男性向けなど、年齢・性別に応じた居場所が少ない
- 既存の集会所や公民館は利用料が高い、または使い方がわからない
- 集会所がない地域がある

<アクセスと移動の問題>

- 移動手段や送迎がないと行きにくい
- 免許返納後に高齢者が外出できなくなる
- バスが少なく交通の便が悪い
- 歩いていける距離に居場所がない

<参加のハードル>

- 一人では参加しづらい（話し相手がいない）
- 参加者が固定化していて新しい人が入りにくい
- 既存のコミュニティになじめない
- 何かやらされるのではという抵抗感がある

<情報の不足>

- 居場所や集まりの場所を知らない人が多い
- 情報が届かないため活動できない
- PRが足りていない
- パソコン・スマホが苦手な人で情報にアクセスできない人がいる

<コミュニティの弱体化>

- 近所の人と集まることが少なくなった
- コロナ禍で外出が億劫になっている
- リーダーの高齢化
- 子育て世代、若者の参加が少ない

■自分・地域でやること

<関係づくりと声かけ>

- あいさつを率先して行う
- 近隣の人との交流を積極的に進める
- 近所での見守りや声かけ活動
- 知人と一緒に参加する

<情報収集と発信>

- 地域の状況を知る努力をする
- 情報を集める・知る

- 回覧板でイベントのPRをする
- SNSを活用する

<参加と行動>

- 気軽に外へ出る
- 色々な活動を調べて顔を出す
- 自ら声をかけ動く
- ポジティブにチャレンジする

<イベントや活動の企画>

- 男性同士で楽しく集まれるイベント（健康マージャンなど）を企画
- 子ども食堂で交流する
- 夏祭りなど地域イベントを開催する
- 子ども連れOKの企画を実施する

■市にお願いしたいこと

<場所の確保と整備>

- 空き家や団地の活用
- 小学校の空き教室や公園の有効活用
- 気軽に立ち寄れる場所を提供する
- 駅やバス停に近い集まれる場所の整備
- 各センターの建て替え、整備
- 公園にベンチやテーブル、健康器具を設置する

<移動手段の充実>

- 移送サービスの充実（ナッシー号の見直し）
- 移動が不便なエリアへの交通手段の確立
- ・グリーンスローモビリティやデマンドバス、ライドシェアの試行

<情報提供の改善>

- 広報しろい、SNS、リーフレット、地域新聞などでの積極的な情報発信
- 情報をわかりやすく提供する
- サークル等の広報の場を作る

<経済的支援>

- 助成金や補助金の充実
- 無料の場所提供

地域の居場所づくりを進めるためには、誰もが気軽に立ち寄れる場所の提供、地域資源の活用、交通手段の整備、世代や性別を超えた交流ができる工夫、情報発信の充実が求められています。また、住民自身が居場所について情報収集し、積極的に参加することが大切です。

7 記録写真

(1) 4月19日(土) 白井駅前センター



(2) 4月19日(土) 西白井複合センター



(3) 4月26日(土) 公民センター



(4) 4月26日(土) 桜台センター



(5) 4月27日(日) 富士センター



(6) 4月27日(日) 白井コミュニティセンター

